

# みる つくる がたる

千葉県立美術館報

VOL. 14 NO. 3

(通巻54号)

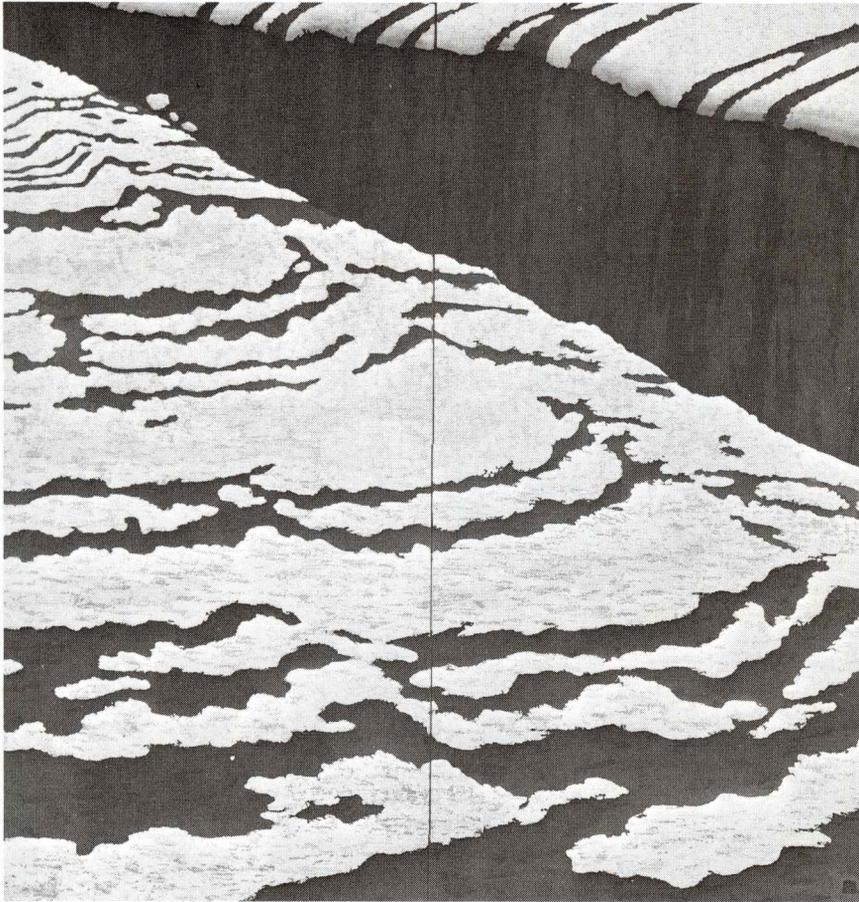
昭和62年8月31日発行

編集・発行人 藤川 昶

〒260

千葉市中央港1丁目10番1号

☎0472-42-8311 (代表)



## 青木滋芳「雪原」

染色 昭和四十六年作

(青木滋芳展出品)

青木滋芳(大正3、昭和58)は、東京美術学校工芸科図案部に入学しますが、まもなく染色工芸の美しさに魅せられます。卒業後、染色を生涯の方向として在学中からの師でもある和田三造、広川松五郎について学び、自己の芸術を確立し、文展、日展、現代工芸展などを舞台として、この世界の代表的存在として活躍しました。

作品には、動物や植物をモチーフに構成したものも勿論ありますが、風景を最も多く制作の対象としています。青木は、北海道から九州に至るまで日本各地をくまなく歩き、貪欲に取材を重ねました。その取材をもとに、染色のさまざまな技法を用いて独自の造形を開拓し、展開させました。この「雪原」は、好んでしばしば訪れた日光の雪景色をテーマとしています。大胆な構成で、リズム感にあふれ、広がりのある空間が形成されています。一見平凡な風景から、清新な風景世界を築き上げる作者の鋭敏な感覚と技量の豊かさが十分伝わってきます。この作品は、昭和46年、改組第3回日展に出品され、内閣総理大臣賞を受賞しました。

みる  
(展覧会)

企画展

青木滋芳展

'87・9・12 ~ 10・11

特別展 9%まで

ピカソ展・連日のにぎわい

8月7日から9月6日まで

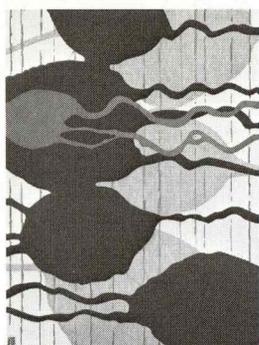
ピカソ展を開催している。ピカソの知名度が高いこともあって、開催前から問い合わせが多くあり、オープン後も会場は連日にぎわっている。本展では、ピカソの没後、孫娘マリナに相続された作品群の中から選ばれた作品によって構成されている。作品は、ほとんど未公開のものであり、しかも、絵画・素描・陶器といったようにバラエティに富んだ内容であることも鑑賞者に一層の興味を与える結果を生んでいる。総数約100点の展覧であり、ピカソの魅力を知り、絶好の機会といえよう。



ピカソ展 会場風景



池 一六三



作品 C 一六四

本年度企画展第17回「房総の美術家シリーズ」は、染色工芸家の青木滋芳(大正3~昭和58)に焦点をあてて開催します。

青木滋芳は、大正3年5月25日、東京四谷に生まれ7歳の時に一家を挙げて千葉市葛城町に移住しました。父敏郎は欧州航路の客船パーサーで、若い芸術家たちに自宅を開放し、展覧会を開くなど物心両面の援助をしていました。

この社交場に入りしめていた作家たちに、日本画家の鈴木月潭、洋画家の無縁寺心澄、彫金家の信田洋、彫刻家大須賀力らがいました。彼らはのちに、千葉美術会を発足させて、県内在住、出身作家の団結を呼びかけるなど活躍



青木滋芳氏

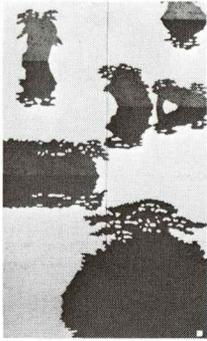
しました。昭和11年には千葉美術会の後身ともいえる千葉県美術協会が設立され、この時には東京美術学校在学中の青木滋芳も参画しています。青木滋芳は昭和8年に東京美術学校工芸科図案部に入學し、和田三造、広川松五郎に

学びました。和田三造は洋画家として活躍していましたが大正7年に絵更紗の大作を発表して反響を呼び、高島屋染色芸術研究所の所長に就任して染色の研究に取り組み、多くの後身を育てました。一方、

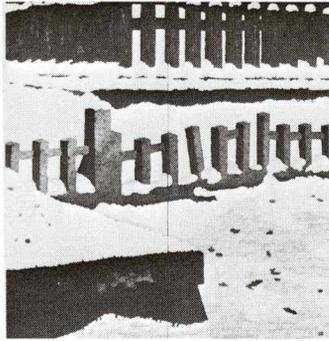
廣川松五郎は、大正15年に鉢

金家高村豊周、佐々木象堂ら新進の工芸家たちと工芸集団「无型」を結成、同年、この「无型」が軸となって日本工芸美術会が発足し、芸術としての工芸をめざす運動が進められました。染織界においても、それまでの企業主導型から脱脚し、個人作家の登場の気運が高まりました。広川松五郎はその先駆者として活躍、昭和2年に待望の工芸部門の帝展参加が実現し、壁飾、屏風、衝立など、おもに蠟防染色の作品を次々に発表しました。この二人の染色工芸の大家と出会い、青木滋芳は染色工芸家として芸術の道を歩ふこととなりました。

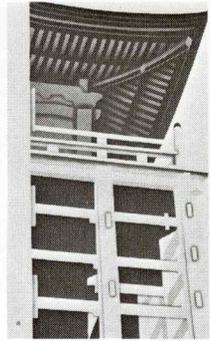
昭和13年、東京美術学校を首席で卒業しましたが、卒業制作は「あなたの友達―虫と魚たち」という英文の海外向け絵本として出版されました。泥絵具のざん新な色彩による現代的な感覚の作品で、青木



松島 一九七六



春雪 一九七三



古刹(笠森観音) 一九六六

滋芳のグラフィック・デザインの才能がいかに高く発揮されています。同年の第2回新文展には、「染色・虫の行軍 児童室壁飾」が初入選し、また紀元二六〇〇年記念日本万国博覧会子供ランドの設計をまかされ、将来を嘱望されていました。

本格的に染色作品の制作に取り組んだのは、終戦後疎開先の福島県から千葉市に戻ってからで、昭和27年の第8回日展に出品した染屏風「キャベツと連根」で特選を受賞しました。

青木滋芳の作品は、ほとんどが屏風、額、衝立など絵画的要素の強いものです。初期のころは、友禅染などに用いられる糊防染の技法を用いて、「池」や「庭前小景」など伝統的な装飾美を越えた新鮮な感覚をみせる作品を発表しています。

昭和35年、日展会員となり、この頃から蠟防染による制作に変わりました。昭和36年に現代工芸美術家協会が、鍛金家の蓮田修吾郎、彫金家の帖

佐美行らによって結成され、滋芳も翌年の第1回展から出品しました。現代工芸美術家協会は、「工芸の本義は作家のイリュウジョンを基幹としていわゆる工芸素材を駆使し、その造型効果による独自の美をなすもので、その制作形式の立体的たると平面的たるとを問わず工芸美を追求することにある」とし、新味ある作品が多く制作されました。昭和40年代に入るこの時期は抽象的傾向の美術が盛んであり、青木滋芳も一時期、「縞のある四辺形」、「作品C」などの抽象的作風の作品を発表しています。

その後は、各地の風景や山雪景など自然に取材し、写実を基礎とした風景作家としての活動を展開し、昭和46年の第3回改組日展に出品した「雪原」で、内閣総理大臣賞を受賞しました。単純化した大胆な色彩の画面構成は、自然の美を追求する厳しさと同時に優しさを感ぜさせます。

青木滋芳は、日展評議員、現代工芸美術家協会顧問として染色工芸界で活躍する一方、本県においても千葉県美術会の常任理事を務め、昭和51年度には千葉県教育功勞

者(芸術文化)に表彰され、本県の美術界発展に大きく貢献しました。

昭和58年4月17日、肝臓障害のため、68歳で逝去。ひたすら自然の移り変わりを作品に染め上げてきた青木滋芳の早い死に、その才能を惜しむ声が多く聞かれます。

本展覧会では、日展及び日本現代工芸美術展出品作品を中心に遺作約40点を展覧し、青木滋芳の染色の世界を御紹介します。



峠 一九六二

美術を語る会

日時 10月3日(土)午後2時  
 話題 「父、滋芳の思い出」  
 話題提供者 青木三四郎氏  
 (彫刻家)

「意欲作を一堂に」 9%まで  
 第二回現代日本具象彫刻展

前号でお知らせした第二回現代日本具象彫刻展は、8月7日(金)から始まった。同時にオープンした特別展「ピカソ展」とあわせて、初日から多くの入場者があり、大賞作6点に対するアンケートも順調に行われている。

8月9日(日)の授賞式には、大賞受賞作家、入選者、招待作家、来賓などが多数出席し、審査会長嘉門安雄氏の審査講評なども行われ、第二回展に対する氏の率直な見解が述べられ、出品者にとって意義深い式となった。

展覧会は9月6日(日)まで開催されるが、8月22日(土)には美術を語る会(3)が開かれ、大賞受賞者関正司氏が「私の制作について」話題提供された。



現代日本具象彫刻展会場風景

昭和62年度常設  
**收藏作品展Ⅲ期**

9/12 ~ 10/18

企画展  
**第11回千葉県移動美術館**

今年度常設收藏作品展Ⅲ期は、日本近代美術史において、見のがすことのできない水彩画の展開を本館收藏作品により御覧いただきます。

明治、大正、昭和と洋画史の変遷の中で、水彩画というジャンルの位置も様々に変化し、展開していきました。日ごろ、親しまれながらも洋画史における重要な役割があまり知られていない水彩画を改めて見直していただくよい機会となりましょう。

**主な展示作品**

- 丸山晚霞(慶応3) 昭17
- 「長野水内風景」(明31)
- 大下藤次郎(明3) 明44
- 「紫陽花」(明37)、「青梅」(明37)
- 石川欽一郎(明4) 昭20
- 「水辺」(明末)
- 白滝幾之助(明6) 昭35
- 「エジプト」(大11)、「伊国ナポリ」(大12)
- 三宅克己(明7) 昭29
- 「小諸城址」(明33)
- 牧野克次(元治1) 昭17
- 「松林」(不詳)
- 小林儼(明11) 昭12
- 「けしの花」(不詳)
- 長谷川良雄(明17) 昭17
- 「晩秋」(明42)
- 田中善之助(明22) 昭21
- 「山門」(不詳)
- 石井柏亭(明15) 昭33
- 「舟に居る人」(大2)、「晩春行楽図」(昭13)、「舞姫」(昭28)
- 小山周次(明18) 昭43
- 「ばら」(昭13)、「甲斐牧丘」(昭21)
- 赤城泰舒(明22) 昭30
- 「赤屋根の村」(大2)、「山湖」(昭初)
- 水野以文(明23) 昭49
- 「草花」(大3)
- 後藤工志(明26) 昭4
- 「ダリア」(大2)
- 古賀春江(明28) 昭8
- 「風景」(不詳)
- 中西利雄(明33) 昭23
- 「トリエール・シユール・セーヌ」(昭5)、「四人の女」(昭14)
- 不破章(明34) 昭54
- 「二女」(昭28)、「奥鬼怒の湯治場」(昭51)
- 富田通雄(明34) 昭51
- 「外房鶴原」(不詳)、「静かなる日」(昭12)
- 小堀進(明37) 昭50
- 「南欧の丘」(昭37)、「霞ヶ浦」(昭48)
- 荒谷直之介(明35) 昭51
- 「若い裸婦たち」(昭51)
- 三橋兄弟治(明44) 昭51

**浅井忠コーナー**

佐倉藩に生まれた明治洋画の巨匠、浅井忠(安政3) 明40)のコーナーを常設し、作品をはじめ、背景資料等や周辺作家の作品など、毎回テーマを変えて展示しています。今回は、浅井忠が優れた才能を発揮した水彩画に焦点をあてて御紹介します。

**主な展示作品**

- 「風景」(明11頃)
- 「磐梯山の図」(明21)
- 「金州城壁上」(明27)
- 「金州城南門外」(明27)
- 「男性裸像」(明34)
- 「フォンテンブローの森」(明34)
- 「洋上の夕陽」(明35)
- 「農家」(明35)
- 「帆船の図」(不詳)
- 「つばきの図」(不詳)
- 「糸をくる女」(不詳)
- 「大原女」(明35) 明40
- 「花」(明35) 明40
- 「東宮御所壁飾草稿(2)」(明38)

館外での美術館活動として行ってきた千葉県移動美術館を今年度も開催する運びとなった。今回で11回目である。本展覧会を通して、県民の方々に美術をより身近なものとして親しんでいただくことを願っている。この移動美術館は、昭和52年度から開始し、これまで毎年2会場を巡回して美術鑑賞の場を広げてきた。開催した場所は、木更津・館山・松戸・大多喜・成田・銚子・東金・佐原・流山・八日市場・佐倉・柏・八街・四街道・佐原・富里・八千代・君津・丸山・浦安の県内各方面となっている。作品については、各会場のスペースを考慮しながら、日本画・洋画・彫刻・工芸・書・版画の各分野を対象として30〜50点程を選び展示している。今回の会場及び会期については次の通りである。御鑑賞いただければ幸いである。

印旛村中央公民館

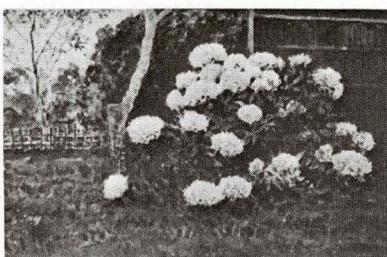
10月29日〜11月9日

富津市富津公民館

11月12日〜11月24日



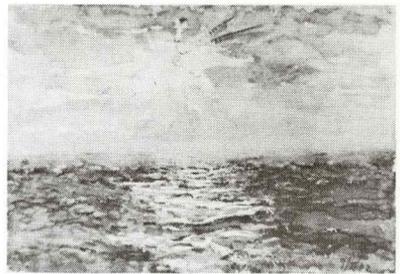
中西利雄「四人の女」



大下藤次郎「紫陽花」



**入館者二百万人突破!!**  
 本館も今年で開館13年目を迎え、去る8月11日に、二百万人目の入館者を迎えた。当日、特別展「ピカソ展」、企画展「第2回現代日本具象彫刻展」など開催されるなか、二百万人目に現われた人は、福井医科大学生の木村恵子さんで



浅井 忠「洋上の夕陽」

今年度常設収蔵作品展Ⅳ期は、12月8日(火)から昭和63年3月31日(休)まで開催します。ここでは、常設している浅井忠コーナーの他、鑄金家の香取秀真、津田信夫、日本画家の石井林響、富取風堂、洋画家の椿貞雄、版画家の浜口陽三、星裏一ら房総ゆかりの作家約10名に焦点をあて、順次展示替えをしながら、作家の紹介と顕彰を図る予定です。

また、併せて新収蔵作品を展示します。

藤川館長から記念品や展覧会図録などが贈られた。木村さんは千葉に来たのは初めてのことで、突然のフラッシュ攻めと贈り物に驚きながらも表情をほころばせていた。

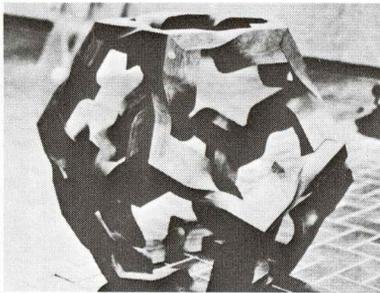
入館者は、展覧会や環境設備の充実と共に、増加の傾向にあり、開館4年目に50万人、8年目で百万人を迎え、13年目にして二百万人を迎えたわけであるが、これは、JR京葉線の開通や千葉ポートタワーのオープン、周辺の千葉ポートパークの環境整備や直通バスの運行などによるところも多いと思われるが、これを機により一層、県民に親しまれる美術館への発展に努めたい。

第18回現代日本美術展

本館賞受賞作品

池田丈一「ひねくれた正12面体」は、チーク材を使用し、作者自身「ひねくれシリズ」と呼んでいる幾何形態の作品だが、角材の稜線が面の中に融け込み、無機的なものが有機的にうごめく面白い造形だ。池田丈一は、一九四八年新潟県生まれ、京都芸大彫刻科出身で大阪彫刻家会議等に所属。日本国際美術展等で活躍中の新進気鋭の作家である。

池田丈一「ひねくれた正12面体」  
 木(チーク材) 119×136×129 cm  
 一九八七年



いっぴい・団体展

- 第6回刻字千葉展 8月25日～8月30日
- グネラ・テコパージュ展覧会 9月1日～9月6日
- 第17回新構造千葉支部展 9月1日～9月6日
- ※臨時休館
- 千葉等迦展 9月7日～9月11日
- 第20回千葉県高等学校合同写真展 9月15日～9月20日
- 第25回新世紀美術協会千葉支部展 9月15日～9月20日
- 昭和62年度千葉県芸術祭千葉県写真展 9月15日～9月27日
- 第37回千葉デザイン展 9月22日～9月27日
- 第34回千葉県勤労者美術展 9月22日～9月27日
- 第3回日本書道学会千葉県連合会書道展 9月22日～9月27日
- 昭和62年度第30回千葉市小中養護学校児童生徒作品展 9月24日～10月4日
- 第19回ファンシー洋画展 9月24日～10月4日
- 第14回文化書道千葉県連合会公募展覧会 10月6日～10月11日
- 第7回二科会写真部千葉支部展 10月6日～10月11日
- 第5回日中友好書道展覧会 10月13日～10月18日
- 第39回千葉県美術展覧会 (県展) 10月24日～11月15日
- 千葉県高等学校総合芸術祭—美術・工芸・書道作品展 11月18日～11月29日
- 第32回こども県展 12月1日～12月13日
- 第10回千葉展 12月15日～12月25日
- 第23回登龍社宮坂会書初展 1月5日～1月10日
- 第17回千葉県大学美術連盟展 1月5日～1月10日
- 第5回明るい社会づくりポスター・コールドール展覧会 1月5日～1月10日
- 千葉市観光絵画と写真コンクール 1月12日～1月17日
- 今日の美術を考える会展 1月12日～1月24日
- 第5回千葉県医師会美術展 1月19日～1月24日

次ページへ

美術を語る会

「みる・かたる・つくる」活動の一環として、美術に関する理解の場を提供するため、特別展・企画展の展覧会と関連させたり、「つくる」活動の実技講座と関連させながら実施している。

美術に関する問題に一層の理解と関心を深めるため、年間10回行われ、第6回からは、日本画、洋画(7月11日実施)、版画、彫刻、工芸、書の分野を実技講座との関連でとりあげ、それぞれ著名な作家などを講師に招き、話題を提供していただく談話会の形式で実施する。

美術に関する問題に一層の理解と関心を深めるため、年間10回行われ、第6回からは、日本画、洋画(7月11日実施)、版画、彫刻、工芸、書の分野を実技講座との関連でとりあげ、それぞれ著名な作家などを講師に招き、話題を提供していただく談話会の形式で実施する。

美術に関する問題に一層の理解と関心を深めるため、年間10回行われ、第6回からは、日本画、洋画(7月11日実施)、版画、彫刻、工芸、書の分野を実技講座との関連でとりあげ、それぞれ著名な作家などを講師に招き、話題を提供していただく談話会の形式で実施する。

- 第8回 日時 12月19日(土)午後2時  
テーマ 未定  
話題提供者 神谷紀雄氏(陶芸家)
- 第9回 日時 1月23日(土)午後2時  
テーマ 未定  
話題提供者 鶴岡洋氏(版画家)
- 第10回 日時 2月13日(土)午後2時  
テーマ 未定  
話題提供者 渡辺学氏(日本画家)

ごあんない・団体展

- 前ページから
- 第15回千葉書壇秀技新進展展 1月26日～1月31日
- 第21回老人クラブ会員作品展 1月26日～1月31日
- 群鷗書人展 2月2日～2月7日
- 第3回書星選抜展 2月2日～2月7日
- 第40回千葉県小中高校書初展覧会 2月2日～2月7日

日誌抄

- 名。学習院大学2名。跡見学園女子大学4名。共立女子大学1名。法政大学1名。帝京大学1名。

博物館実習

- 昭和62年度博物館実習は、8月7日(金)～8月12日(水)まで、28名の学生を迎えて行われた。
- 日本女子大学1名。青山学院大学1名。千葉大学4名。鶴見大学2名。お茶の水女子大学1名。国士館大学3名。実践女子大学2名。和洋女子大学4名。武蔵野美術大学1名。

ごあんない・実技講座

- |   |   |   |  |
|---|---|---|--|
| <p>美術館実技講座</p> <p>陶芸講座(2)</p> <p>期日 10月24・27日<br/>11月13・25・27日<br/>12月11・16・18日<br/>1月16・29日</p> <p>講師 神谷紀雄氏</p> <p>定員 30名</p> <p>縮切 10日間</p>   | <p>書芸講座(3)</p> <p>期日 12月10・11・17日<br/>18日</p> <p>講師 浅見錦龍氏</p> <p>定員 30名</p> <p>縮切 4日間</p>   | <p>洋画講座(3)</p> <p>期日 1月28・29・30日<br/>2月4・5・6日<br/>7・10・11日<br/>12・13日</p> <p>講師 小林数氏</p> <p>定員 30名</p> <p>縮切 12日間</p> | <p>日本画講座</p> <p>期日 1月26・27・28日<br/>2月2・3・5・6・7・9日<br/>10日(10日間)</p> <p>講師 宇津木雀声氏</p> <p>定員 30名</p> <p>縮切 5日間</p> |
| <p>斎藤惇氏</p> <p>期日 1月12日(火)</p> <p>友の会実技講座</p> <p>期日 11月3日(5日間)</p> <p>講師 佐藤孝氏</p> <p>期日 10月20日(火)</p> <p>彫塑入門講座</p> <p>期日 11月11日(7日間)</p> <p>堀豊之氏</p> <p>期日 10月31日(土)</p> <p>洋画入門講座</p> <p>期日 11月28日(6日間)</p> <p>渡辺晋氏</p> <p>期日 11月14日(土)</p> <p>てん刻入門講座</p> <p>期日 12月4日(3日間)</p> <p>鈴木知秋氏</p> <p>期日 11月20日(金)</p> <p>版画入門講座</p> <p>期日 1月12日(7日間)</p> <p>坂戸武雄氏</p> <p>期日 12月25日(金)</p> <p>書芸入門講座</p> <p>期日 1月19日(5日間)</p> <p>宇津木雀声氏</p> <p>期日 12月25日(金)</p> | <p>斎藤惇氏</p> <p>期日 1月12日(火)</p> <p>友の会実技講座</p> <p>期日 11月3日(5日間)</p> <p>講師 佐藤孝氏</p> <p>期日 10月20日(火)</p> <p>彫塑入門講座</p> <p>期日 11月11日(7日間)</p> <p>堀豊之氏</p> <p>期日 10月31日(土)</p> <p>洋画入門講座</p> <p>期日 11月28日(6日間)</p> <p>渡辺晋氏</p> <p>期日 11月14日(土)</p> <p>てん刻入門講座</p> <p>期日 12月4日(3日間)</p> <p>鈴木知秋氏</p> <p>期日 11月20日(金)</p> <p>版画入門講座</p> <p>期日 1月12日(7日間)</p> <p>坂戸武雄氏</p> <p>期日 12月25日(金)</p> <p>書芸入門講座</p> <p>期日 1月19日(5日間)</p> <p>宇津木雀声氏</p> <p>期日 12月25日(金)</p> |   |  |